

# しまだ元気市のブラッシュアップ

常葉大学 経営学部 小坂ゼミ

指導教員：講師 小坂 拓也

参加学生：小澤 祥怜、寺田 琉海、山本 暖、大野 太士、山下 七海、  
植田 有真、鈴木 啓太、鈴木 聖矢、西浦 結登、西川 武琉

## 1 要約

本研究は、島田市中心市街地で定期開催されている「しまだ元気市」を対象に、来場者アンケート調査および現地観察を通じてイベントの現状と課題を明らかにし、今後の活性化に向けた改善提案を行ったものである。公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ゼミ・研究室等地域貢献推進事業」の助成を受け、島田市商工課およびしまだ元気市実行委員会と連携して実施した。

学生は来場者アンケートの設計・配布・回収・集計・分析を主体的に行い、若年層来場促進や回遊性向上、イベントの魅力向上に資する提案を取りまとめた。令和8年1月15日には島田市役所において成果発表会を開催し、市職員および実行委員会関係者から一定の評価を得ることができた。

## 2 研究の目的

「しまだ元気市」は、地域住民の交流促進と地元商店の活性化を目的として継続的に開催されているイベントである。一方で、来場者層の高齢化や若年層の参加が限定的であること、回遊性や滞在環境に課題があることが指摘されてきた。

本研究の目的は、

- ① 来場者の属性・満足度・ニーズをデータに基づいて把握すること
- ② 現状の課題を整理し、実現可能性を重視した改善提案を行うこと
- ③ 学生が地域課題を実践的に学び、行政・地域関係者と意見交換する機会を創出することの三点にある。

## 3 研究の内容

研究は以下の流れで実施した。

最初に、「しまだ元気市」の現状を把握するため、令和7年7月26日に、学生と引率教員が島田市の「しまだ元気市」の会場を訪問し、元気市の現在の開催状況を視察した。



令和7年7月26日（土）に学生と教員が訪問した『しまだ元気市（夕涼み市）』の開催の様子

次に、10月6日（木）に島田市役所商工課より塚本一馬課長補佐、岩崎文哉書記を常葉大学草薙キャンパスお迎えし、地域イベント「しまだ元気市」の現状や課題について説明をいただいた。学生たちは、島田市のこれまでの取り組みを学びながら、イベントの魅力向上や地域活性化に向けたアイデアを発表し、活発な意見交換を行った。



令和7年10月6日（木）開催の『しまだ元気市ブラッシュアップ・キックオフセミナー』の様子

そして、島田市職員との意見交換の中から、学生は今後の「しまだ元気市」の改善提案のために、来場者アンケート調査を実施することが有効であるとの結論に至った。

そこで、来場者アンケート調査を実施するため、設問内容を学生が検討し、年齢層、居住地、来場目的、満足度、改善点、今後の企画に対する関心等を把握できるアンケート票を作成した。令和7年11月23日（日）に開催された「しまだ元気市」において、来場者に対してアンケートを配付し、106人の来場者からアンケート票を回収した。

次に、回収したアンケートを集計・分析し、年齢別構成、来場回数、満足度、改善要望の傾向などを整理した。あわせて、会場の動線、飲食・休憩スペース、案内表示などについて現地観察を行い、ハード面・運営面の課題を抽出した。



令和7年11月23日（日）に「しまだ元気市」において学生が実施した来場アンケート調査の集計結果の一部抜粋

これらの結果を踏まえ、学生はグループごとに改善提案を検討し、広報・集客施策、体験型企画、回遊性向上策など、実現可能性を重視した提案を取りまとめた。これらの提案をもとに、令和8年1月15日（木）、島田市役所において『しまだ元気市』のブラッシュアップに向けた学生による成果発表会を実施した。



令和8年1月15日（木）に島田市役所で開催した『しまだ元気市』のブラッシュアップに向けた学生による成果発表会の様子

**主な改善提案(既存)**

- 【空間・運営面】
  - 会場の拡張と柔軟な運営（北側・南側の両方活用）
  - イートイン・休憩所の設置
- 【集客・広報面】
  - 駅前案内・駅前にポスター・のぼり設置
  - SNSやマスコットを活用した広報強化
- 【体験・イベント面】
  - お茶・SLなど地域資源を活用した体験企画
  - 夜市形式や有名人イベントで若年層を呼び込む
  - 季節ごとのイベント開催

**追加提案(新規)**

中長期的に検討可能な改善策として提案する

- 日除け・雨除けテントやバリアフリー動線
- 電子決済対応・公式アプリで利便性向上
- 高校・大学との連携や地元企業PR
- エコ食器導入・フードロス対策
- SLと連動した観光企画や市内スタンプラリー

令和8年1月15日（木）の成果発表会における『しまだ元気市』のブラッシュアップに向けた学生の改善提案の一部抜粋

## 4 研究の成果

### (1) 当初の計画

当初は、来場者アンケート調査を通じて現状把握を行い、学生の視点から複数の改善案を提示し、成果発表会で関係者と意見交換を行うことを計画していた。

### (2) 実際の内容

#### A（予定どおり）その理由

アンケート調査、集計・分析、改善提案の作成、成果発表会の実施は、概ね当初計画どおり実施することができた。成果発表会では、学生によるプレゼンテーションおよび質疑応答を行い、市職員および実行委員会メンバーから意見や助言を受ける機会を得た。

### (3) 実績・成果と課題

成果として、来場者の多くが市内在住の高齢層であること、満足度は比較的高い一方で、若年層向け企画や回遊性向上に今後の改善余地があることが明らかになった。改善提案については、アンケート集計結果を踏まえた具体性が評価され、関係者から「貴重な内容である」との意見を得ることができた。

一方で、学生にとっては初めての行政向け発表であり、発表表現や質疑応答対応には若干のたどたどしさが残るなど課題も残った。

### (4) 今後の改善点や対策

今後は、アンケート項目の精緻化やデータ分析力の向上、提案内容の絞り込みなどを行い、より実務に活用しやすい成果物を目指す必要がある。また、学年構成を踏まえた段階的な学修設計も課題である。

## 5 課題提出者・地域への提言

本研究を通じて、来場者データに基づく継続的な現状把握の重要性を確認した。特に、若年層の来場促進に向けた体験型企画やデジタル施策、回遊性を高める仕組みづくりは、今後検討する価値が高いと考えられる。

学生による『しまだ元気市』のブラッシュアップに向けた提案は、実行委員会や市職員が今後の運営を検討する際の基礎資料として活用されることが期待される。

## 6 課題提出者・地域からの評価

成果発表会において、島田市の鈴木将之商工課長および、しまだ元気市実行委員会の茨猛実行委員長から、学生が実施したアンケート集計結果や改善提案について、「非常に貴重な内容である」「今後の参考としたい。また、古着回収ボックスを設置など、すぐにできる学生の提案は実行していきたい」といった評価を得ることができた。

また、学生が行政や地域関係者の前で調査結果を発表し、意見交換を行った点について、教育的意義が高く、今後の学生の模擬店出店などの積極的な参加も期待できる取り組みであるとの評価を受けた。